

特集

国際学会で 発表しよう

その研究が, 世界をつなぐ

看護学研究の国際化をめざすためには ——国際学会発表の指導を通して 牧本清子	530
英語での発表という挑戦を後押ししてくれたもの 樋上容子	537
博士課程指導教員として考えていること 山本あい子	542
国際会議でのプレゼンテーションと議論の経験 ——「貧困と健康」の積み上げ型アプローチ 有坂めぐみ	546
国際学会発表の意義とその向こう側 山川みやえ	553
EAFONS におけるポスター発表から得られたもの 森木友紀	561
国際学会発表に向けて 大学院生をどうエンパワメントするか 河野あゆみ	568
研究を携え, 国際舞台に挑戦する 吉行紀子	574

特別記事	PICU に子どもが入室した両親の担った役割 第1報 研究の概要 戈木クレイグヒル滋子, 西名諒平, 岩田真幸, 村山有利子, 西川菜央, 清水称喜, 渡井恵, 森智史, 佐藤貴之, 増田真也, 中田諭, 辻尾有利子, Ardith Z. Doorenbos	582
連載	集まる つながる 広がる 若手研究者のバトン・2 「伴」に走る——看護という道を, 伴走者として 坂梨左織	521
	専門看護師 CNS とは何か・8 CASE8 一貫して本人の意思を問い, 本人のペースを守る 山下由香/井部俊子/大生定義	590
	CNS へのインタビュー——現象学的分析 山下由香/村上靖彦	595
	理論構築を学ぶ——看護現象から知を生むために・11 理論により介入モデルを精錬する ——点眼アドヒアランスの概念モデルの構築 松尾和枝/坂下玲子	602

INFORMATION 580

今月の本 601

バックナンバー 611

次号予告・編集後記 610